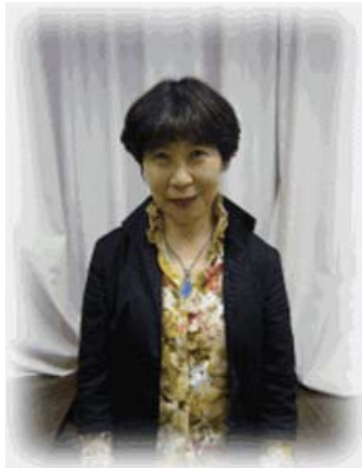


男女共同参画推進室便り

神戸大学男女共同参画推進室 〒657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1 tel. 078-803-5017 fax. 078-803-5285 分室 tel/fax. 078-803-5474

女性研究者養成システム改革加速「レボリューション！女性教員養成神戸スタイル」に向けて

—人間発達環境学研究科としての取り組み—



人間発達環境学研究科長
朴木 佳緒留

(ほうのき かおる)

ジェンダーをめぐる教育史と教育戦略を研究。
大学教育については「神戸大学の進める男女共同参画の取り組み」(工学教育Vol.59 No.3 2011)、「大学におけるジェンダー教育の実践と課題」(日本の科学者Vol.46 No.12 2011)。

人間発達環境学研究科は「人間の発達 (development)」と「人間を取り巻く環境の発展 (development)」を教育・研究する学問複合型の研究科です。2011年度の教員数は105名、うち男性88名、女性17名で、女性比率は16.2%です。神戸大学の「女性研究者支援モデル育成」事業が始まった2007年度の女性比率は13.5%でしたから、「やや上昇」といえましよう。本研究科の理系(理・工・農学)教員は、男性25名、女性3名、女性比率は11.0%です。神戸大学全体の女性比率は13.0%ですから、本研究科は全学の平均値に近い状況にあります。

一方、学部学生の女性比率は56.2%、博士前期課程では54.2%、博士後期課程では59.6%です。大雑把に言えば、学生の半分程度は女子学生であるが、女性教員は1割をやや超える程度しかいない、ということになります。学生にとって、教員はモデル(将来像)の一つですが、女性教員比率が相当に低いことは、女子学生が「研究者になる」という将来像または希望を持ちにくくなることにつながります。欧米ではこのような「モデル像の偏り」が1970年代より指摘され、ジェンダーによる「機会の不均等」とみなされてきました。日本でも1980年代後半以降、同様な指摘が行われています。神戸大学では「女性研究者養成システム改革加速」事業を展開し、理系女性教員増を実行中ですが、本研究科でも2012年度には女性枠で1名を採用する予定です。これを機会に「人間の発達」研究の深まりと連動することを願っています。

国際シンポジウム Women in Science and Education

開催報告

女性研究者がリードする持続可能な社会



Under the patronage of
UNESCO

United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

このシンポジウムでは加速プログラム対象の女性研究者が将来をみすえた研究生活を展望しながら研究を一層発展できるように、制度的な支援の問題の検討、ロールモデルの提示などを行うことを目的として3名の方に講演をしていただきました。S.G. Corat氏(ユネスコ男女共同参画担当ディレクター)からは、「Where are the Women? Gender Equality in Science and Education」と題し、国際社会の中で科学分野と教育現場でのジェンダー平等の推進の必要性がどのように認識されているか、その中であって日本の現況はどうか、などについて検討していただきました。次に、E.A. Nalley氏(キャメロン大学教授、2006年アメリカ化学会会長)から「Leadership Among Women in Science in the USA」と題し、アメリカの女性研究者の状況をご自身の経験をふまえてお話いただき、最後に相馬芳枝氏(神戸大学特別顧問)から「世界化学年と女性科学者」と題し講演していただきました。相馬氏は2011年もっとも優れた女性化学者として賞をIYCから授与されましたが、ご自身の研究環境を含めて日本の女性研究者のおかれた状況と理系の女性研究者を増やすための神戸大学の取組について検討されました。ご講演のあとには、ツェンコバ室長が司会となり、本学長野宇規氏(農学研究科准教授)、茶谷絵理氏(理学研究科准教授)が3人の講演者に加わりパネルディスカッションを行いました。ここでは、若い男性研究者の中には積極的に家事や育児に加わりたいと考えていること、そのための施策が必要であることなどが確認されました。またフロアーからも多くの質問、議論があり、活発な意見交換が行われました。



ユネスコ男女共同参画担当ディレクター S.G. Corat 氏を神戸大学が招聘

神戸大学男女共同参画推進室では、国際社会の中でジェンダー平等の問題がどのように位置づけられているか、ジェンダー平等のためにどのような取組みが行われているか、日本が果たすべき役割は何か、などについて議論し、神戸大学の中のジェンダー平等を推進していくだけでなく、地域社会、国内、国際社会の中でのジェンダー平等を推進し、そのために神戸大学が果たすべき役割を検討していくため、ユネスコの男女共同参画担当ディレクター S.G. Corat 氏を招聘しました。現在ユネスコではジェンダー平等の問題をアフリカ問題とともにユネスコがもっとも関心をもって対処する課題としており、男女共同参画担当ディレクターである Corat 氏はユネスコ事務局長と直接議論をしてこの課題に取り組む 10 人の専門家の一人です。今回 Corat 氏をお招きし、神戸大学での講演を行うだけでなく、兵庫県、内閣府、文部科学省でもそれぞれの機関が果たすジェンダー平等推進のための役割とユネスコとの連携のあり方などについてご講演をお願いしました。



学長表敬訪問の様子

報告1 神戸大学トップマネジメントミーティング

12月19日午前、理事、研究科長、評議員、事務局長など神戸大学の政策にかかわるおよそ 30 名の教職員が参加し、Corat 氏によるトップマネジメントミーティングを行いました。大学においてはとりわけ理系分野の女性研究者が少なく、日本でも加速プログラムなどの施策が講じられていますが、女性の広い視野が加わることによって科学分野での発展があるという認識のもとに積極的な任用策が求められること、その点で日本は先進国の中でももっとも遅れている国の一つであること、などの指摘がされた上でユネスコにおける女性任用策として最終面接段階に女性が 2 人以上いない場合はその理由を言う必要があり、その理由が不十分な場合はその人事そのものが白紙に戻されるといった具体的な策も示されました。議論ではフロアーから管理職に女性をもっと増やすことが肝要であるといった意見も出され、活発な意見交換がされました。

報告2 兵庫県、内閣府、文部科学省 トップマネジメント講演会

ツェンコバ室長と岡田室員が同行し、兵庫県(12/20)、内閣府・文部科学省(12/22)において Corat 氏に講演会をしていただきました。トップマネジメント講演会では、なんらかの形で男女共同参画にかかわる 15 ~ 20 人ほどの事務官が出席され、また兵庫県では、清原桂子理事、内閣府では、岡島敦子男女共同参画局長も参加されました。講演後の議論ではそれぞれの機関の男女共同参画に関する施策、取組みが紹介された後に直面している困難な点などについて意見交換及び議論が行われ、男女共同参画の推進が社会の活性化を進める上で重要であることが確認されました。文部科学省では、文部科学省と国立女性教育会館の共催により男女共同参画にかかわる大学関係者、文部科学省内の事務官、国立女性教育会館関係者を対象にして講演が行われました。また、講演の後には板東久美子生涯学習政策局長(当時)との会談も行われ、大学における男女共同参画の推進の必要性が確認され、さらに今後のユネスコと神戸大学との連携について Corat 氏から説明がありました。



文部科学省訪問の様子

第1回女性教員と男女共同参画担当理事との懇談会

12月19日のお昼に、15名の女性研究者と武田理事との懇談会を開催しました。ツェンコバ室長の挨拶の後、武田理事から現在検討が進められている六甲台保育所に関する進捗状況の説明が行われました。続いて、女性研究者から子育てと研究の両立支援策等に関する意見が出され、理事および参加した女性研究者同士で意見交換を行いました。女性研究者間の交流および研究環境の改善にむけた取り組みとして、今後も継続していく予定です。



分室のご案内

男女共同参画推進室の分室にもお気軽にお立ち寄りください。

場所：自然科学総合研究棟 2号館 101号室

神戸大学 男女共同参画推進室

男女共同参画推進室シンボルマーク

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1

TEL 078-803-5017 / FAX 078-803-5285 分室 TEL / FAX 078-803-5471

Email: gnrl-kobestyle@office.kobe-u.ac.jp

HP: <http://www.office.kobe-u.ac.jp/opge-kyodo-sankaku/index.html>